

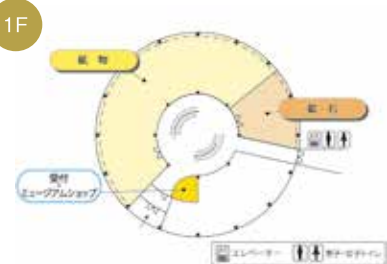
# 国際資源学研究科附属鉱業博物館 Mineral Industry Museum



鉱業博物館は、秋田大学の研究活動において収集された、地球と資源に関する様々な分野の資料や標本を展示・保管している国際資源学研究科の附属施設です。

その沿革は、鉱山技術者養成のため1910年に設立された秋田鉱山専門学校に始まります。その後、新制大学発足当時の鉱山博物館を経て1961年に現在の建物が建設され、鉱業博物館となりました。

常時公開されている展示棟では、様々な色と形の鉱物・鉱石、珍しい岩石や化石を多数展示し、地球の歴史や資源の生成について学ぶとともに、鉱山設備に関連した実機と多数の精密模型から、資源開発の流れと鉱山技術をわかりやすく解説しています。また、期間限定の特別展や連携展、開放講座を通して、大学における最新の研究や幅広い学術分野の成果を紹介しています。



1階は、鉱物と鉱石を展示しています。ここに展示された標本は秋田鉱山専門学校設立以来のスタッフや学生、OBらが収集したり、当時稼行していた国内の多くの鉱山から寄贈された標本が母体になっています。これに加え、国内外の研究機関や収集家の協力を得て、現在、分類展示では国内最大規模である約500種2200点におよぶ国内外で産出した良質で貴重な標本を見ることができます。



2階は「地球の構成と歴史」について、隕石、岩石、地層、化石の標本を展示しています。展示室に入ると「太陽系の中の地球」「岩石」「地球表層の諸現象」「秋田の生い立ち」「地球生命史」の5つの展示コーナーがあります。私たちの地球はどのような物質からでき、どのような現象が起きていたのか、生命はいつごろ誕生し、どのように進化したのかについて、多数の標本とパネル、そしてツールを利用して読み解くことができます。



3階は、「資源開発」についての展示です。資源の開発技術は、多岐にわたっていますので、当館では、資源開発の流れを「探鉱」「採鉱」「採油」「選鉱」「製錬」の4つの工程に分類し、鉱物の探査から金属の製造まで、それぞれを独立したコーナーとして展示しています。他にも、「鉱物資源の分布」「鉱山の保安技術」「自然エネルギー」「秋田の鉱山史」の展示を設け、鉱山技術の全容とその変遷が学べるようになっています。

## ご利用案内

- 開館時間：9：00～16：00
- 休館日：年末年始（12月26日～翌年1月5日）12月～2月の日曜日と祝日
- 入館料：大人100円／高校生以下無料
- 無料館内案内：サイエンスボランティアによる館内案内を行っています。（一週間前まで要予約）



Googleストリートビューサービスにて鉱業博物館内を公開しております。館内の1階から3階までの展示棟内を、高精細な360度のパノラマ写真で見渡せるようになりました。パソコンやスマートフォンの画面から簡単に閲覧することができますので、館内のバーチャル体験や、ご見学前の下見などに活用ください。Googleマップで、「鉱業博物館」と検索していただくか、こちらのQRコードからご覧いただくことができます。

